

令和 3 年度  
事業報告書

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

学校法人松山ビジネスカレッジ

## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神

学校法人松山ビジネスカレッジの歴史は、昭和 21 年に洋裁に関する知識や技術を修得した洋裁師を養成するために設立された松山洋裁女学院にさかのぼる。

昭和 41 年 12 月、学校法人山本学園設立。昭和 51 年以降、松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校、松山歯科衛生士専門学校を開校するなど、時代の変遷とともに移り変わる社会的な要請にもとづき、新たな分野の学校を開校し、職業と密接に関連した専門教育を実践してきた。

平成 25 年 4 月、学校法人山本学園から学校法人松山ビジネスカレッジへ法人名を変更。平成 26 年 4 月、学生が横断的にカリキュラムを選択することが可能で、フレキシブルに学ぶことができる学校を目指し、学校及び学科の統廃合を含めた大幅な見直しを行ったことなどから、現在の 3 校 5 学科体制に至っている。

令和 2 年 10 月には、学校法人松山ビジネスカレッジと学校法人河原学園は「アライアンスパートナー契約」を締結し、お互いの強みや得意分野を活かして地域における教育の質をより向上させ、社会で活躍できる人材を育成していく体制を構築した。

「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」、「学生が主体的に学ぶ授業」、「対話を重視した教育」、「地域との調和と共存」の 4 つの教育理念のもと、「きびしく、やさしく、ていねいに」を教育方針として、75 年の歴史と伝統を継承しつつ、実践的かつ実務的な授業を行ってきた結果、卒業生は総数 15,000 人を超え、地元愛媛はもちろん日本国内だけでなく海外においても、プロとして幅広い分野で活躍している。

今後についても、学校法人松山ビジネスカレッジは、現代社会において必要とされる学科・専攻・カリキュラムを備えた専門学校づくりに全力で取り組み、豊かな人格とプロとしての専門知識・技能を持った人材を育成していくことで、微力ながら地域の発展に貢献していきたいと考えている。

### (2) 学校法人の沿革

昭和 21 年	3 月	松山洋裁女学院を松山市花園町に設立
昭和 23 年	4 月	松山洋裁女学院 設置認可
昭和 32 年	10 月	杉野学園ドレスメーカー女学院の指定校となる
昭和 41 年	12 月	松山技芸専門学校を吸収合併
昭和 41 年	12 月	学校法人山本学園設立
昭和 43 年	3 月	松山市一番町に校舎落成
昭和 46 年	7 月	各種学校松山技芸専門女学院 閉校
昭和 49 年	10 月	各種学校松山デザインスクール 開校
昭和 51 年	4 月	松山女学院ドレスメーカー専門学校、松山デザイン専門学校 開校
昭和 55 年	4 月	松山歯科衛生士専門学校 開校
昭和 61 年	4 月	松山コンピュータ専門学校 開校
昭和 62 年	3 月	準学校法人相原学園を吸収合併

- 昭和 62 年 4 月 松山情報ビジネス専門学校 開校 (松山タイピスト専門学校を変更)
- 平成 3 年 3 月 松山市辻町に校舎落成  
松山コンピュータ専門学校、松山デザイン専門学校を移転
- 平成 7 年 4 月 松山医療福祉専門学校 開校
- 平成 14 年 9 月 松山市竹原に校舎落成 (松山医療福祉専門学校を移転)
- 平成 21 年 7 月 一番町校舎全面リニューアル完成
- 平成 22 年 3 月 松山医療福祉専門学校 閉校
- 平成 25 年 4 月 学校法人山本学園から学校法人松山ビジネスカレッジへ法人名変更
- 平成 26 年 3 月 松山デザイン専門学校、松山情報ビジネス専門学校を統合のため閉校
- 平成 26 年 4 月 松山女学院専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校へ校名変更 (女学院とデザインの統合)  
松山コンピュータ専門学校から専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校へ校名変更 (コンピュータと情報ビジネスの統合)
- 平成 29 年 4 月 松山歯科衛生士専門学校を辻町校舎へ移転
- 令和 2 年 10 月 学校法人河原学園とアライアンスパートナー契約を締結

(3) 設置する学校・学科・専攻等

設置する学校	開校年月	学科・専攻等	摘要
専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校 (松山市一番町 1 丁目 4-1)	昭和 51 年 4 月	ファッションビューティ学科 ファッションデザイン専攻 ファッションビジネス専攻 ネイル・メイク専攻 ファッションビューティ研究科 総合デザイン学科 デザイン専攻 写真・映像専攻 イラスト・漫画専攻 トータルデザイン研究科	
専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校 (松山市辻町 1-33)	昭和 61 年 4 月	情報システム学科 システムエンジニア専攻 ゲームクリエイター専攻 情報システム研究科 医療ビジネス学科	
松山歯科衛生士専門学校 (松山市辻町 1-33)	昭和 55 年 4 月	歯科衛生学科	

(4) 学校・学科の学生数の状況

令和3年5月1日現在 (単位:人)

学校名		入学定員数	収容定員数	現員数	摘要
専門学校松山ビジネスカレッジ クリエイティブ校	ファッションビューティ学科 ファッションビューティ研究科	65	120	18	
専門学校松山ビジネスカレッジ ビジネス校	情報システム学科 情報システム研究科	75	140	26	
松山歯科衛生士専門学校	歯科衛生学科	40	120	118	

(5) 役員の概要

令和4年3月31日現在

定員数 理事5名 監事2名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	河原成紀	非常勤	令和2年10月理事・理事長就任
常務理事	松岡由紀子	非常勤	令和2年10月理事・常務理事就任
理事	河原次瞭	非常勤	令和2年10月理事就任
理事	芦田宏直	非常勤	令和2年10月理事就任
理事	室利幸	非常勤	令和3年4月理事就任
監事	宮部高至	非常勤	平成24年12月監事就任
監事	山本秀人	非常勤	令和2年10月監事就任

(6) 評議員の概要

令和4年3月31日現在

定員数 11名

氏名	主な現職等
河原成紀	学校法人松山ビジネスカレッジ理事長、学校法人河原学園理事長
河原次瞭	学校法人松山ビジネスカレッジ理事、学校法人河原学園学園長
松岡由紀子	学校法人松山ビジネスカレッジ常務理事、学校法人河原学園企画運営部部长
室利幸	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園広報部長
芦澤昌彦	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園教務部長
中村亮	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
大川隆英	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
露口武志	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
河端浩美	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
高橋良昌	学校法人松山ビジネスカレッジ、学校法人河原学園
岡田善雄	学校法人松山ビジネスカレッジ管理本部長

(7) 教職員の概要

令和3年5月1日現在 (単位:人)

区分	本部	クリエイティブ校	ビジネス校	歯科衛生士校	計
教員	本務	3	3	4	10
	兼務	14	7	40	61
職員	本務	14	1	1	17
	兼務	1		1	2

(8) 施設等の状況

所在地	施設等	面積等	摘要
愛媛県松山市一番町 (一番町校舎)	校地	725.27 m <sup>2</sup>	専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校と本部(管理本部)が使用
	校舎	1,209.47 m <sup>2</sup>	
	校地(駐輪場)	130.24 m <sup>2</sup>	
愛媛県松山市辻町 (辻町校舎)	校地	1,090.90 m <sup>2</sup>	専門学校松山ビジネスカレッジビジネス校と松山歯科衛生士専門学校と本部(進路指導部)が使用
	校舎	2,338.81 m <sup>2</sup>	
	校地(駐車場)	66.29 m <sup>2</sup>	

2. 事業の概要

(1) 事業の概要

令和3年度は、創立75年の歴史と伝統を基礎とし、「豊かな教養と高度な専門性を持った人材育成」「学生が主体的に学ぶ授業」「対話を重視した教育」「地域との調和と共存」の教育理念のもと、面倒見の良い教育を徹底し、地域になくてはならない専門学校を目指して活動を行った。

令和2年10月に学校法人河原学園と締結した「アライアンスパートナー契約」に基づき、お互いの強みや得意分野を生かし、教務・広報等の業務改善や教育の質の向上をはかり、学生募集活動を強化することに取り組み、法人の経営基盤の安定、教育環境の整備・充実、教職員の処遇改善等に努めた。

(2) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

① 広報活動

令和4年度からスタートする「松山デザイナー専門学校」ファッションクリエイター学科(3年制)、ファッションビジネス学科(2年制)、Webクリエイター学科(2年制)の3学科と、既存の「松山歯科衛生士専門学校」歯科衛生学科(3年制)の2校4学科体制について、県内各高校や高校生・保護者等の認知度を高めるため、広報活動の強化・徹底に取り組んだ。

具体的には、2校4学科の教育内容・学校生活等を充実させたパンフレット等の作成・配布、WEB広報(ホームページ内容のリニューアル、各学科のSNS等情報発信、TVCM等)の質と量を強化、高校内ガイダンスや会場ガイダンスへの参加、各高校の進路や担任教員との情報交換を積極的に行った。また、オープンキャンパスは、ホームページへのイベント内容掲載、開催回数の増加、遠隔地参加者への交通費補助制度の新設等を実施し、参加者増加を目指した。

こうした活動の結果、令和4年度入学3校3学科の募集実績（研究科を除く）は、ファッションクリエイター学科9名、ファッションビジネス学科12名、Webクリエイター学科14名、歯科衛生学科42名、4学科合計77名（前年比15名増加）となった。

## ②教育活動

学生一人ひとりの個性を生かしつつ、知識・技能のレベルアップや社会で必要とされる実践能力の習得や資格取得に計画的に取り組んだ。また、外部講師・特別講師の採用や遠隔授業の実施に積極的に取り組み、社会の変化に柔軟に対応し、若者のニーズ、都会の流行、新しい知識・技術等を盛り込んだ授業を行った。

3校3学科の各授業科目において、出席率の向上に向けた指導、小テストの実施に取り組むとともに、学生の知識レベル等の向上について学科内や月例会議等において進捗管理と課題へのタイムリーな具体策を講じることで、シラバスで目指す結果を達成する教育活動を徹底した。

専門学校として、地域社会から求められる人材を育成する職業実践教育をより一層強化していくため、教育設備・機器の充実、外部機関との連携（見学先・実習先、特別講師の派遣等）等に計画的かつ積極的に取り組んだ。また、教育レベル向上のため、教員の外部研修等への参加や企業連携による新たな知識・技術の習得研修に努めた。

令和3年度の職業実践専門課程の認定申請を行い、松山ビジネスカレッジクリエイティブ校ファッションビューティ学科と松山歯科衛生士専門学校歯科衛生学科の2学科が認定された。

資格取得については、令和4年3月に実施された歯科衛生士国家資格試験において、松山歯科衛生士専門学校歯科衛生学科の卒業生35名のうち35名全員が合格し、合格率100%を達成した。

## ③就職支援

キャリアセンターと教員が連携し、各学生の成績、職業能力、志向性を評価するとともに、就職活動に付随するビジネスマナー、履歴書・エントリーシートの作成、面接、筆記試験対策等の指導を行った。

また、校内企業説明会、企業見学、インターンシップ等を計画的に実施し、学校で身に付けた専門分野の知識や技術、技能、資格を発揮できる業種・企業等に就職できるよう学生の指導、支援を行った。

その結果、3学科ともに卒業生における就職希望者の就職率は100%であった。

## (3) その他

- ・コロナウイルス感染症防止対策として、ワクチンの職域接種を実施するとともに、学生への注意喚起や指導を継続的に実施した。
- ・辻町校舎の教育環境整備を目的として、設備・備品等の整備（看板改修、男女トイレ改修、無線LAN整備など）を実施した。
- ・令和3年度末に、管理本部、専門学校松山ビジネスカレッジクリエイティブ校を一番町校舎から辻町校舎に移転した。

以上